

V がん診療部の現況と研究研修事項

1. がん相談支援センター

<現況>

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に基づき、院内外のがん患者及びその家族、地域住民及び医療機関等から、面談や電話等による相談支援業務を専従のMSW2名及び看護師1名の3名体制で実施した。相談内容に応じて、医師・看護師・臨床心理士などのがん専門スタッフと連携のうえ支援を行った。

令和5年度は、がん情報の発信の充実強化や外来通院時からの療養支援、がん患者・家族のホスピス・緩和ケアに関わる相談に対するサポート、がん情報コーナーでの資料の閲覧・配布、「とよなかがんサロン」やAYA世代のがん患者やその家族向けの交流会「Toyonaka AYAトーク」、「ハローワーク池田出張相談会」などを開催した。また、「とよなかがんサロン」を始めて100回目の節目を迎えることから、記念講演を開催した。

<令和5年度の業務実績>

[相談支援業務]

- ・新規相談件数（再開ケースも含む）：782件（自施設698件、他施設等84件）
※前年度の803件より21件減
※月平均65件
 - ・延べ相談件数：合計1,113件（面談963件、電話140件、その他10件）
※前年度の1,215件より102件減
※月平均93件
 - ・対象者内訳：患者本人（48％）患者家族（44％）の順で、全体の92％を占める。
 - ・対象患者の状況：
 - 【居住地】豊中市在住（74％）豊能医療圏在住（11％）が主で、次いで他府県、不明の順である。
 - 【受診状況】当院受診中（92％）他院受診中（6％）受診医療機関なし・不明など（2％）
 - 【がんの部位】大腸がん、胃がん、乳がん、肺がん、血液・リンパその他の罹患順での相談が多かった。
- [がん相談支援センターフィードバックアンケート調査]
- ・アンケート配布枚数：200枚
 - ・アンケート回収率：46％（回収枚数91枚〔郵送63枚、回収箱13枚、電子申込システム15枚〕）
 - ・回答者の属性：（年齢）50代（25％）、60代（22％）、80代以上（22％）、70代（21％）、40代（7％）、30代以下（3％）
（相談者）家族（53％）、患者（43％）、その他（4％）
 - ・相談についての満足度：とても満足（47％）、満足（50％）、どちらともいえない（3％）

【相談内容】

(単位：件、%)

相談内容	件数	構成比率
がんの治療	261	7.7
がんの検査	26	0.8
症状・副作用・後遺症	168	5.0
セカンドオピニオン（一般）	47	1.4
セカンドオピニオン（受入）	2	0.1
セカンドオピニオン（他へ紹介）	8	0.2
治療実績	9	0.3
受診方法・入院	34	1.0
転院	29	0.9
医療機関の紹介	7	0.2
在宅医療	718	21.2
ホスピス・緩和ケア	715	21.1
療養環境（食事・服薬など）	72	2.1
家族の介護・看護・養育	56	1.7

相談内容	件数	構成比率
仕事・就労・学業	131	3.9
医療費・生活費・社会保障制度	695	20.6
臨床試験・先進医療	7	0.2
補完代替療法	1	0.0
不安・精神的苦痛	166	4.9
告知	14	0.4
医療者との関係・コミュニケーション	62	1.8
患者・家族間の関係・コミュニケーション	72	2.1
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	9	0.3
患者会・家族会（ピア情報）	11	0.3
退院支援	3	0.1
生きがい・価値観	24	0.7
がん予防・検診	8	0.2
その他	26	0.8

※相談内容別に複数カウントしています。

〔対応内容〕

(単位：件)

対応内容	件数
傾聴・語りの促進・支持的な対応	476
助言・提案・心理的サポート	1,050
情報提供	1,094
自施設受診の説明	7
他施設受診の説明	6
当院他部門への連携（医師）	59
当院他部門への連携（病棟）	3

対応内容	件数
当院他部門への連携（外来）	8
当院他部門への連携（他職種）	5
当院他部門への連携（緩和ケアチーム）	3
他施設との連携	546
ピアサポート機能の紹介	6
苦情・要望への対応	2
その他	3

※対応内容別に複数カウントしています。

〔とよなかがんサロン〕

【開催回数12回】 ・延べ参加者数：165名

開催日	内 容	延べ参加者数
令和5年4月24日	談話会	13名
令和5年5月22日	談話会	15名
令和5年6月26日	談話会	19名
令和5年7月24日	談話会	14名
令和5年8月28日	談話会	11名
令和5年9月25日	談話会	13名
令和5年10月23日	談話会	17名
令和5年11月27日	談話会	12名
令和5年12月25日	談話会	15名
令和6年1月22日	談話会	12名
令和6年2月26日	談話会	13名
令和6年3月25日	談話会	11名

※とよなかがんサロン100回記念講演会（参加者数：75名）

日 時：令和5年12月16日 14時15分～ （豊中市立伝統芸能館）

内 容：とよなかがんサロン100回の歩み

記念講演 「いのちの落語～笑いは最高の抗がん剤～」 演者：いのちの落語家 樋口 強

診療部門の現況と研究研修事項

V がん診療部の現況と研究研修事項

[Toyonaka A Y A トーク]

【開催回数12回】 ・延べ参加者数：28名

開催日	内 容	延べ参加者数
令和5年4月27日	①ミニ講座「医師と座談会～教えて先生！～」 ②情報交換&トークタイム	3名
令和5年5月26日	①ミニ講座「もしバナカードをやってみよう！」 ②情報交換&トークタイム	3名
令和5年6月23日	①ミニ講座「いまのわたしの気持ち～表現療法を用いて～」 ②情報交換&トークタイム	3名
令和5年7月28日	①ミニ講座「のぞいてみよう、検査結果」 ②情報交換&トークタイム	2名
令和5年8月22日	①ミニ講座「リンパの仕組みを知って流れをよくしよう！」 ②情報交換&トークタイム	2名
令和5年9月15日	①ミニ講座「おうちでできる簡単リハビリ」 ②情報交換&トークタイム	4名
令和5年10月17日	①ミニ講座「毎日のごはんはどう選ぶ？どう食べる？」 ②情報交換&トークタイム	2名
令和5年11月24日	①ACPゲーム体験会「自分らしく生きるを考えてみよう」 ②情報交換&トークタイム	3名
令和5年12月22日	①ミニ講座「口の中のお手入れ方法」 ②情報交換&トークタイム	2名
令和6年1月19日	・情報交換&トークタイム	2名
令和6年2月22日	・情報交換&トークタイム	1名
令和6年3月19日	・情報交換&トークタイム	1名

[ハローワーク池田出張相談会]

- ・両立支援コーディネーターの研修を修了した相談員とハローワーク池田の職員による相談会を開催
(毎月第3水曜日) 参加人数 10名

<今後の課題>

1. 認定がん相談支援センターの相談員の基準を維持するための計画的な相談員の配置と人材育成が行える体制の整備
2. 相談者のプライバシーに対して十分に配慮ができる相談スペースの確保
3. がん相談支援センターで行われている相談支援業務の院内・院外への周知と広報

2. 緩和ケアセンター

<現況>

緩和ケアセンターは緩和ケアチームと緩和ケア外来を管轄する部門である。当院には緩和ケア診療科・緩和ケア病棟がないため、専ら緩和ケアセンターが診療活動を担当している。緩和ケアチームは緩和ケア委員会のもとに運営されており、チーム活動のうち診療以外の会議と勉強会・研修会・連携カンファレンスの詳細については院内委員会報告（緩和ケア委員会）の項に記載した。

1. 緩和ケアチーム構成

身体担当医 兼任12名（麻酔科、消化器外科、放射線治療科、循環器内科、産婦人科、泌尿器科、消化器内科、皮膚科、脳神経内科）

精神担当医 専従1名（精神科）

看護師 専従1名（緩和ケア認定看護師）

兼任9名（がん看護専門看護師1名、家族支援専門看護師1名、緩和ケア認定看護師1名、がん放射線療法看護認定看護師1名、慢性心不全看護認定看護師1名、がん性疼痛看護認定看護師2名、乳がん看護認定看護師1名、訪問看護師1名）

薬剤師 専任1名 兼任3名（緩和薬物療法認定薬剤師）

MSW 兼任4名

公認心理士 兼任1名

リハビリテーション専門職 作業療法士 兼任1名

管理栄養士 兼任2名

放射線技師 兼任1名

2. 診療実績

1) 緩和ケアチーム

年間依頼件数 272件（うち非がん6件、心不全9件）

依頼時期 診断期14件、治療初期13件、抗がん治療期133件、初期治療終了期1件、治療終了後（BSC期）99件、心不全治療中8件、その他4件

依頼内容 疼痛緩和129件 疼痛以外の身体症状緩和72件 療養環境調整1件
心理面支援47件 家族ケア3件 睡眠障害7件 ACP導入4件
鎮静（倫理的問題）9件

転 帰 自宅退院107件（うち在宅ケア29件） 死亡退院60件
緩和ケア病棟転院26件 一般病棟転6件 施設入所7件
介入終了37件 その他（継続）29件

2) 緩和ケア外来

外来患者数 延べ201件（うち新規患者数55件）

外来開設日数 週5回 担当医師：柏木雄次郎、二宮万理恵

依頼時期 診断期1件、治療初期2件、抗がん治療期45件、初期治療終了期0件
治療終了後（BSC期）6件、その他（相談など）1件

依頼内容 疼痛緩和29件 疼痛以外の身体症状緩和2件 心理面支援21件
睡眠障害2件 その他1件

3. 業務内容

1) がんと診断された時からの緩和ケアの推進

平成26年から開始したがんスクリーニングは年々件数が増加傾向であり、今年度は2,348件であった。また、緩和ケアチーム所属の認定看護師が診断時の医師からの説明に同席・面談を行い、早期からの緩和ケア導入につなげている（がん患者指導管理料イ：300件、がん患者指導管理料ロ：309件）。

2) 医療者および患者への緩和ケアの教育、広報、啓発

緩和ケア研修会（PEACE研修）は講師、受講者ともに院外からの参加者を受入れ、修了者数は21名であった。がんサポートグループの開催、かんわろー新聞の発行を継続した。緩和ケア勉強会を2回開催し院外からの受講者を募った対面集合型と、当日受講できなかった院内スタッフ向けにeラーニングを実施した。地域連携カンファレンスを対面型で院外の医療者を招いて実施した。

院内緩和ケアマニュアルを改訂し院内ポータルシステムで簡便に情報が得られるようにした。

3) がん診療連携拠点病院の指定維持

国指定のがん診療連携拠点病院として、慢性心不全などの非がんを含めた緩和ケア提供体制の充実を図った。緩和ケアチーム回診と緩和ケア外来を開院日は原則毎日行い、多職種による症例カンファレンスを週1回実施した。

4) 緩和ケアに関する研究発表、先進的な取り組み

- ・大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会のWGで作成された『大阪府がん緩和地域連携パス』を豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会・緩和ケア部会でリフォームした連携パス（通称リレーシート）の運用を継続している。作成から5年が経ち記載項目の見直しと改訂を豊能医療圏の同部会で継続審議している。
- ・循環器内科と共同して、慢性心不全患者の緩和ケアの普及に取り組んだ。アドバンスケアプランニングの診療科内のフローを構築し実践した。

<今後の課題>

1. 国指定がん診療連携拠点病院の指定再更新に向け、緩和ケア領域の基準の達成
2. 緩和ケア領域を担うスタッフの確保（特に身体医師）
3. 入院から退院・地域へと、切れ目のない緩和ケア地域連携の推進
4. がん以外の疾患（心不全等）に対する緩和ケア
5. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の啓発
6. 診断時からの緩和ケアの推進

3. がん薬物療法センター

<現況>

がんに対する治療薬は、従来からの化学療法製剤やホルモン剤に加え、分子標的薬剤、免疫療法製剤など多岐にわたっており、副作用に注意が必要となっている。様々な新規薬剤の開発により、治療期間、生存期間が延長し、それに伴い、療養期間も延長している。外来治療センターでは、治療実施当日に、薬剤師、看護師が問診を行い、副作用対策を医師に提案するなど、チーム医療で治療の安全性を高め、患者に安心して治療を受けていただけるよう配慮している。また、薬物療法の支持療法を診療科横断的に多職種でサポートするため、外来治療センターで治療中の全患者、および薬剤師外来相談患者に対して薬剤師による薬剤指導を実施している。

また、高額な抗がん剤の廃棄事例の原因を確認し、予防対策を講じたり、保険減点事例を検討し、対象薬剤の使用方法をルール化するなど、抗がん剤治療の経済的損失の対策を講じている。

外来治療センター

治療実績（令和5年度）

	延べ患者数
大腸がん	1,180
肝・胆・膵・がん	1,302
血液腫瘍	1,408
乳がん	750
胃がん	798
肺がん	519
婦人科がん	158
泌尿器科がん	356
食道がん	88
頭頸部がん	87
皮膚がん	9
脳腫瘍	9
十二指腸がん	12
原発不明	0
その他(非がん)	149
総人数	6,825

薬剤師による指導件数（令和5年度）

- ・点滴抗がん剤を含む治療患者対象：4,496件
- ・経口抗がん剤のみの治療患者対象：379件

薬剤師による総指導件数：4,875件

<今後の課題>

外来治療センターの治療実施件数の増加に伴い、点滴抗がん剤治療実施前の待ち時間増加や、正規のリクライニングチェア以外で治療を実施する状況があった。その対応策として、令和6年度5月より外来治療センターが病棟のエリアに移動し、今後、逐次、病床数を増加する予定である。移動に伴い管理業務を行うには動線が長く、患者観察が難しい環境となったが、今までと同様の投与管理の質の担保を維持することが課題である。

4. がんゲノム医療センター

<現況>

がんゲノム医療センターは、センター長今村博司、副センター長西田 勉のもと、がんゲノム診療部、臨床遺伝診療部を含む組織である。がんゲノム診療部は、部長西田 勉、臨床遺伝診療部は、部長富田尚裕で運営している。センターのメンバーは表1を参照。

当センターは、質の高いがんゲノム医療と遺伝カウンセリングを提供する目的で、令和5年4月に設立された。がんゲノム診療部では、チーム医療によるがん遺伝子パネル検査を提案・実施している。臨床遺伝診療部では、遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーががんゲノム診療部と連携して、診療と遺伝カウンセリングを行っている。センターは週1回のミーティングを通じて、がん遺伝子パネル検査に関する週間の照会と出検状況の確認を行い、院内外を含む勉強会や研究会の企画・実施により、がんゲノム医療の普及に努めている。令和7年度には、エキスパートパネルを自施設で開催し、出検数のさらなる増加をめざす。

表1 がんゲノム医療センターメンバー

がんゲノム医療センター			
センター長	今村博司（医師）*※		
副センター長	西田 勉（医師） ¹⁾ *※		
がんゲノム部門	遺伝性腫瘍部門		
部門長	西田 勉（医師） ¹⁾ *※	富田尚裕（医師） ^{2) 3)} *+※	
所属メンバー	安田純子（看護師） ⁴⁾ *#※	宮田海香子（遺伝カウンセラー）	
	二宮由紀恵（看護師） ⁵⁾ *#※ 鍋島 智（事務）*※	大塚千代美（臨床検査技師）*# 秋本和之（事務）*	
協力メンバー	川瀬朋乃（医師） ¹⁾ ※	足立史朗（医師） ⁸⁾ ※	小池万里子（看護師） ⁵⁾ *#※
	秦 真由美（看護師） ⁴⁾ *#※	辻江智子（医師） ⁹⁾ ※	佐藤泰史（医師）※
	西浦志保（看護師） ⁶⁾ #	斎藤智子（看護師） ⁶⁾ #	山内一浩（臨床検査技師）※
	久田真規子（薬剤師） ⁷⁾ *#※	田中美加（診療情報士）※	宮本美和（MSW）※
	荒木邦章（診療情報士）※	好井理世（遺伝カウンセラー）	

- 1) がん薬物療法専門医・指導医 6) 緩和ケア認定看護師 *: がんゲノム医療センター所属（兼務）
 2) 臨床遺伝専門医・指導医 7) がん薬物療法認定薬剤師 +: 非常勤職員
 3) 遺伝性腫瘍専門医・指導医 8) 病理学会専門医・指導医 #: がんゲノムコーディネーター研修修了者
 4) 化学療法看護認定看護師 9) 日本産婦人科遺伝診療学会認定者（周産期） ※: がんゲノム医療委員会委員
 5) がん看護専門看護師

表2 令和5年度がん遺伝子パネル検査実施状況

	4月-6月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	合計
新規依頼件数	15	6	13	8	42
検査説明外来実施件数	14	6	12	6	38
出検件数	13	7	12	6	38
エキスパートパネル件数	16	7	8	5	36
結果説明外来実施件数	17	7	10	2	36
中止・保留件数	4	3	3	0	10

表3 令和5年度診療科別相談件数／出検件数

	4月－6月		7月－9月		10月－12月		1月－3月		合計	
	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数
乳腺外科		1					1	1	1	2
消化器外科	1	3			4	5	2	2	7	10
消化器内科	5	3	1	1	4	4	3	1	13	9
呼吸器内科	3	1	4	3	1				8	4
呼吸器外科	1		1	2			1	1	3	3
皮膚科					1				1	
泌尿器科	5	5		1	3	3	1	1	9	10
合計	15	13	6	7	13	12	8	6	42	38
非連携からの紹介			1	1					1	1

表4 がん遺伝子パネルの種類と出検件数

FoundationOne [®] CDxがんゲノムプロファイル	26件	Qualifiedでの結果受領1件、リキッドでの再提出2件
FoundationOne [®] Liquid CDxがんゲノムプロファイル	9件	Qualifiedでの結果受領1件、リキッドでの再提出1件
Onco Guide [™] NCCオンコパネルシステム	0件	
GeaMineTOP [®] がんゲノムプロファイル	1件	
Gurdant360CDx [®] がんプロファイルシステム	2件	

<今後の課題>

令和5年度のがん遺伝子パネル検査出検数は38件であった。令和4年度は45件と増加傾向であったが、今年度は減少した。この減少の原因を探るため、他施設のベッド数および出検数との比較分析を行い、特に出検数が少ない診療科に対しては、原因の確認と解決策を行う予定である。また、非連携病院からの医師の年間入れ替わりの多さも、がん遺伝子パネル検査の周知にかかる時間が長くなる一因と考えられる。年度初めには、eラーニングの開催や外部講師を招いた院内外の研究会・勉強会の計画を通じて、認知度の向上を図っていく。さらに、非連携病院からの紹介患者数を増やすことが出検数増加の鍵だが、現状では年間1～2件の増加に留まっている。今後は、自施設内でのエキスパートパネルの開催を通じて、非連携施設からの紹介数増加をめざす。しかし、スタッフが兼任で絶対的なマンパワー不足は大きな課題であり、人員の拡充が急務である。

<研究研修事項>

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー ◎

「大阪府の一がんゲノム医療連携病院 当院の3年間の報告と課題」

二宮由紀恵

豊中市、市立豊中病院

参加者：約70名

令和5年9月29日

■第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー ◎

「どうする がんゲノム医療 次の一手！」

吉野孝之（国立がん研究センター東病院 副院長・医薬品開発推進部門長）

豊中市、市立豊中病院

参加者：約70名

令和5年9月29日

学会発表

■がんゲノム医療連携病院のがん遺伝子パネル検査の現状とがんゲノム医療センターの役割

二宮由紀恵、小池万里子、西浦志保、齋藤智子、秦 真由美、安田純子、大塚千代美、羽田亜希、
久田真規子、川瀬朋乃、富田尚裕、今村博司

第61回日本癌治療学会学術集会

千葉県 横浜市 ハイブリッド開催（パシフィコ横浜 会議センター） 令和5年10月19日－21日

■HBOC遺伝学的検査の乳がん患者への案内システムの構築 第2報

大塚千代美、二宮由紀恵、羽田亜希、小池万里子、西浦志保、好井理世、宮田海香子、赤木謙三、
今村博司、富田尚裕

第61回日本癌治療学会学術集会

千葉県 横浜市 ハイブリッド開催（パシフィコ横浜 会議センター） 令和5年10月19日－21日